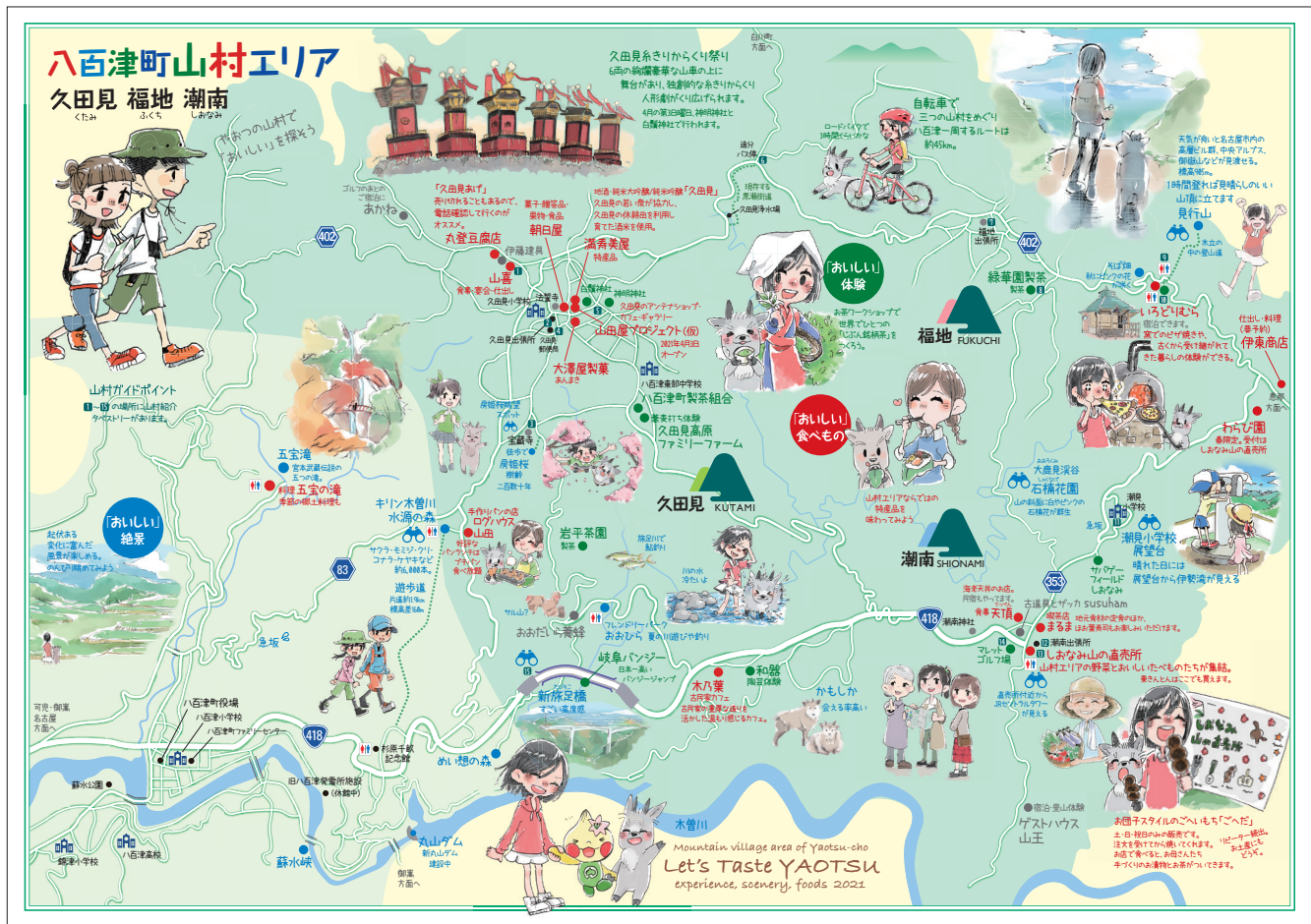


八百津町山村エリア活性化デザインプロジェクト

Blanding design for mountain village area of Yaotsu-cho, Gifu.

東仲雅明
HIGASHINAKA Masaaki



山村エリア観光マップ



広報誌「おいしい八百津」



キャンペーンパンフレット



特産品セットパッケージ

取り組み概要

地域ブランドイメージ構築のデザイン

近年、岐阜県加茂郡八百津町では過疎化が進んでおり、町役場では観光客誘致や移住に注力するとともに、町民が誇りをもって住めるまちづくりを目指している。その活動の一環として町役場が主体となり、山村活性化支援交付金事業（2018年度より3ヶ年計画農林水産省交付金事業）が行われることになり、名古屋造形大学は産学官連携として東仲がコンセプトメイキングから参画しプロジェクト授業を開講。2018～2020年の3年間にわたり学生たちとともに現地視察をはじめ町の活性化のための町民ワークショップ、各種グラフィックデザイン制作に取り組んだ。

八百津町について

八百津町は総人口約1万人、木曽川と飛騨川に南北を挟まれ、その面積の約8割を山林が占める海拔120m前後の山村地区で、恵那市、美濃加茂市、可児市、瑞浪市、加茂郡川辺町、七宗町、白川町、可児郡御嵩町などと隣接した地域である。かつては名古屋鉄道が岐阜県可児市の明智駅から八百津中心部まで運行していたが2001年に廃線となり現時点で町へ通じる公共交通機関は本数の少ないバスのみとなっている。

この町は、そのむかし木曽川上流から流してきた材木を集積し筏に仕立てて桑名や名古屋に運ぶための拠点であり、飛騨地方と名古屋との物流のハブとして機能し栄えていた時期があった。そのため町内には古くからの祭りの伝統が受け継がれ、複数の造り酒屋や和菓子屋があるほか、味噌・

醤油製造、お酢の醸造も行なわれている。

おもな観光資源としては、杉原千畝記念館、栗きんとん、八百津煎餅、お茶、丸山ダムカレー、だんじり祭り、からくり祭りなどがあり、2020年にはそれらに日本一の高さを誇るバンジージャンプが加わった。

プロジェクト対象地域

3年間のプロジェクト対象地域は山村エリアにある三地区「久田見」「福地」「潮南」である。いずれの地区も八百津町役場から車で30～40分離れた場所に位置し、それぞれが異なる特徴を持っている。

産学官協働の体制

プロジェクト協働の中心となったのが「山村活性化支援事業協議会調整会議」である。八百津町役場タウンプロモーション室、NPO法人まち楽房、岐阜大学、名古屋造形大学、プロジェクト進行を客観評価する中小企業診断士の5者で定期的会合を開き、年度事業を企画運営。町の活性化について町民が考え行動する機会づくりであり、大学の活動報告の場でもあった「やおつ山村未来塾」は3年で17回開催された。



山村活性化事業の組織と役割(プロジェクト授業紹介用図版より)



八百津町山村3地区(プロジェクト授業紹介用図版より)



八百津町山村地区へのアクセス(「八百津町山村エリア観光マップ」より)

主な制作内容

八百津町山村エリアロゴマーク

すでに町内で使われていた「やおつ→802」という表記を使い、「8」を八百津の山並みを想起させる漢字の「八」

に変え、「〇」はワークショップで町の特徴として町民から多く挙げられた『八百津は人がまるい』という意味を込めた正円にし、それらに川や道をあらわす具象的要素である線を組み合わせることによって、誰にとっても覚えやすく親しみやすいデザインとした。



Let's Taste YAOTSU
experience , scenery , foods

特産品購入キャンペーンでの展開

キャンペーン賞品
インシュレーションボトル



特産品購入でもらえるビニール製ショルダーバッグ



キャンペーンパンフ



特産品購入キャンペーン応募シールへの展開。
地区テーマカラーを設けた。



「久田見」
お茶の清々しさ
ライトグリーン



「福地」
緑に映えるそばの花
ピンク



「潮南」
遠くの海を眺める
ライトブルー

デザイン＝東仲雅明／イラストレーション＝森あかり

八百津町山村エリア観光マップ

山村の三地区（久田見、福地、潮南）を「おいしい食べ物」「おいしい絶景」「おいしい体験」という3つの切り口で紹介するイラストレーションマップ。女の子と八百津で見かけるニホンカモシカのキャラクターを中心に、お祭り

や店舗、観光名所などを親しみやすいタッチで表現したもの。

地図には3つの切り口の「おいしい」情報が掲載。2次元バーコードをスマートフォンで読みこめば詳細情報を得られる。2019、2020、2021年度版を制作し、情報のアップデートとイラストレーションも追加更新を繰り返した。



2021年版表紙

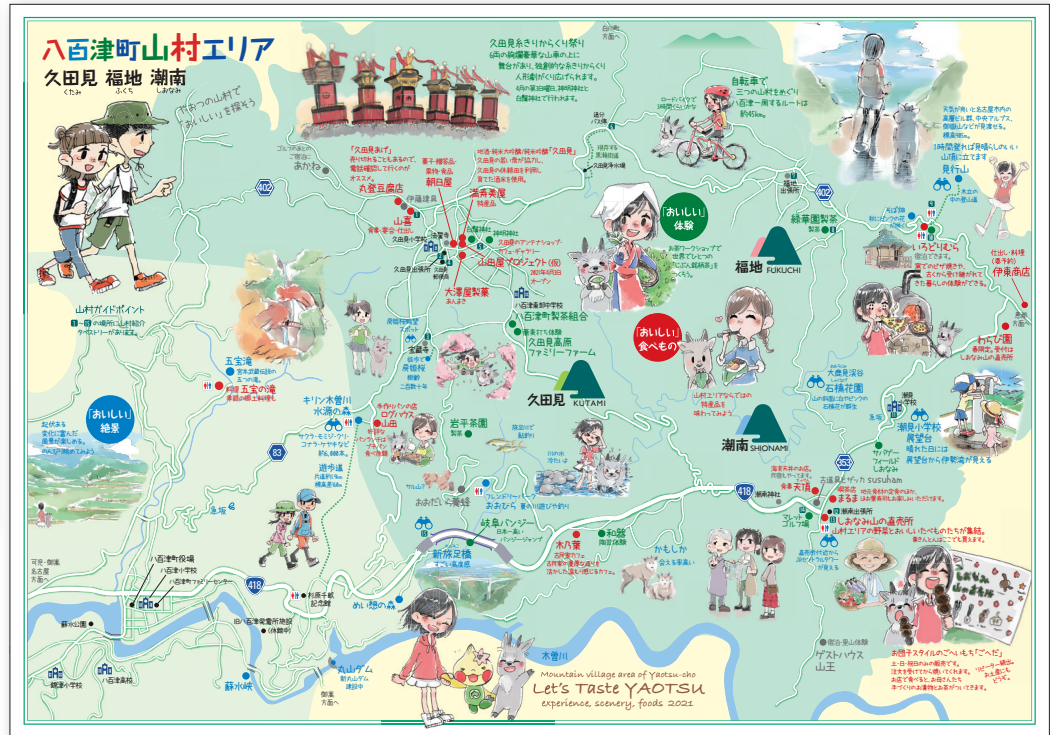


2020年版表紙



2019年版表紙

折り畳み時のサイズ
105mm×210mm



デザイン＝東仲雅明／三地区を示す山マークデザイン＝水谷紗菜／イラストレーション＝森あかり

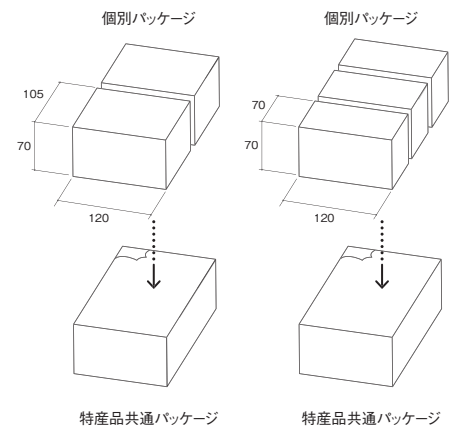
特産品パッケージ

2019 年度に山村エリアの特産品購入促進キャンペーンプレゼント用の特産品セットパッケージ、翌年度には幅広い用途に対応できる小サイズの個別パッケージを開発。開け方や見え方のアイデアを多数検討し、雲や緑、花や水面など自然連想イメージが中身を包むデザインを採用した。



特産品セットパッケージのデザイン提案モデル

個別パッケージのアイデアスケッチとコンストラクションの検討



特産品セットパッケージは単体使用するほか、小さな個別パッケージをもおさめることができる。

候補となる用紙を選出し制作した多数の試作品。



ハイグレード版は落ち着いた色調でメタリックな粒状感のある用紙、レギュラー版では優しい風合いの用紙の組み合わせ。ロゴ部はいずれもシルバー箔押しで、品のある印象に仕上げた。

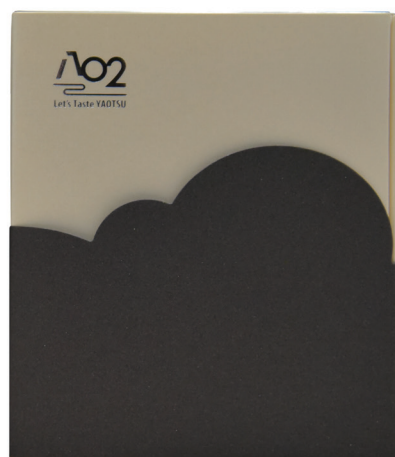
特産品セットパッケージ



レギュラー版パッケージ



ハイレード版パッケージ



特産品セットパッケージ



特産品セットパッケージには様々な形状の商品が入る想定のため、表現が偏らないよう留意した。個別パッケージはレギュラー版3種類とハイレード版2種類の構成とし、グレード差についてはそれぞれに使用するファンシーペーパーの色や素材感で表現した。

特産品共通パッケージデザイン＝宮川桃
個別パッケージデザイン＝
岩田彩伽・梶田歩・水谷
紗菜・水谷萌音・宮川桃・
森あかり・小出貴子・高島
璃華子

「おいしールキャンペーン」パンフレット

年間を通して行った山村特産品購入促進キャンペーン用パンフレット。季節ごとに表紙イメージと記事内容を変えたバリエーションを展開するもの。B5版4ページ。

表紙は当初に決めたフォーマットのタイトル部分の季節ご

とデザイン展開と全体の色調アレンジでのバリエーション展開。開いた中面にはシーズンごとのキャンペーンプレゼント商品を関係する情報とともに紹介。都度デザインを行った。

デザイン＝岩田彩伽・梶田歩・水谷紗葉・水谷萌音・小出貴子・高島瑠華子・松原明穂
イラストレーション＝森あかり／似顔絵イラストレーション＝宮川桃

夏バージョン

春バージョン

秋バージョン

冬バージョン

山村観光サイン

山村エリア 3 地区の観光スポットに設置するタペストリー形式のサインシステム。イメージの統合を図るため、観光マップに使用したイラストレーションで展開し、それぞれに解説文章を付したもの。600mm × 900mm。

観光サイン



山村三地区フラッグ

観光客が訪問した際に各地区をわかりやすくする役目を果たすもの。店舗などを中心に掲示してもらうもの。ゆるい印象のロゴと柔らかな表情の背景で構成し、和やかで親しみやすいイメージを演出。50mm × 325mm。

三地区フラッグ



てんぼうだい

八百津町の東部に位置する潮見小学校は、標高665mの「潮南高原」と呼ばれる場所にあります。

小学校の展望台からは、岐阜城をはじめ名古屋市の高層ビル群や伊吹山、恵那山、伊勢湾などが見渡せます。

Let's Taste YAOTSU
experience, scenery, foods

「おいしい」でえらばれる八百津



八百津で 「おいしい」をさがそう

潮南から八百津が近なり、八百津には移住者が増え始め、福地では町おこしの活動が盛行的に行われています。

八百津町、特に近年の「山村エリア」の変化はめまぐるしいものがあります。

八百津の「おいしい」物「きん人」「黒蜜」「歴史」を正しく伝えて「おいしい」で選ばれる八百津を目指します。

Let's Taste YAOTSU
experience, scenery, foods

「おいしい」でえらばれる八百津

くろぜかいどう

海に面していない内陸や道は、人々の行き来や物流の滞り、道を渡った後交通と利用が利便した内陸を中心に発展してきました。黒瀬川は本郷(旧津中島)も黒瀬川が流れており、商家が多く繁栄し、黒瀬・本郷の支那口としての役割をはたしました。人々の生活に必要な物資は黒瀬川をくぐり、黒瀬川道を使って人々が各地へ運ばれてきました。運送のハブ地点となった久田見から福地を通過して黒瀬川方面へとつづく黒瀬川道は、人々の重要な幹線として生活を支えていました。

Let's Taste YAOTSU
experience, scenery, foods

「おいしい」でえらばれる八百津

こめ

「久田見」の地名は、一般では、徒歩で道を切りながら山道を歩いていた人々が、山々に囲まれた場所を見て「おきぎきき」に思ったか、地元の方言で「おきぎきき」という言葉に由来しているとも言われています。近年黒瀬川が増え、若い世代に田んぼの技術が継承されていないという問題が深刻化しているなか、地元の若手有志「あおやぎ青年隊」による米づくりで、田んぼがよみがえり始めています。

地名でもある「久田見」は、地元の絆にもなっています。

Let's Taste YAOTSU
experience, scenery, foods

「おいしい」でえらばれる八百津

観光サイン：
デザイン＝岩田彩伽・梶田歩・水谷紗葉・水谷萌音・小出貴子・高島璃華子／イラストレーション＝森あかり

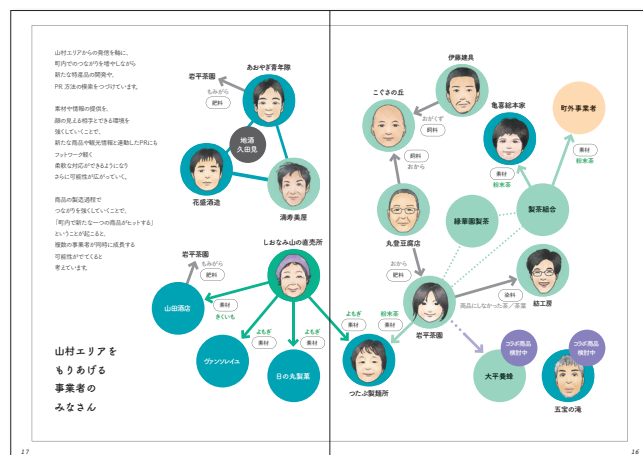
三地区フラッグ：
デザイン＝高島璃華子

広報誌「おいしい八百津」

八百津山村地区を訪れてもらうことを目的に、山村地区の「おいしい」魅力を紹介する小冊子。A5版28ページ。



2020年版（左頁）は黒瀬街道と黒瀬湊という八百津町が担ってきた舟運の役割を歴史面を取り上げつつ山村地区の特産品を関連づけ、さらに体験や絶景を紹介するという



俯瞰的なもの。それに対し2021年版(右頁)は山村の家庭にある新旧の郷土料理を中心に「食」の魅力にフォーカスした企画である。町民へのインタビューや関連し実施した

調理ワークショップの取材をもとに記事を編集した。

デザイン=東伸雅明 / 「やおつ山村郷土料理」ロゴ=小出貴子 / イラストレーション=森あかり / 似顔絵イラストレーション=宮川桃



イラストレーション

イラストレーション＝森あかり／似顔絵イラストレーション＝宮川桃



成果と今後の展開

まとめ

2018～2020年度にわたり産学官協働として行った八百津山村エリア活性化のためのデザイン活動は農林水産省による八百津町への交付金事業の3年間でもあった。町に求められた主な成果指標は町内実店舗やショッピングサイト「やおつMALL (<https://yaotsu-mall.com>)」での特産品売り上げアップであったが目標達成には至らなかった。これは後半のコロナ禍の影響だけではなく、事業推進面での課題として残った。

この山村活性化事業に対応し開講したプロジェクト授業科目にはグラフィックデザインコースとイラストレーションデザインコースの学生が参加。うち半数が1年次から3年次まで継続選択履修した。授業では現地合宿研修で八百津町の空気に触れ、その魅力を実体験するとともに町のイメージ構築のためのワークショップに参加して町民とともに考え意見しあうなどの経験を経て各種デザイン制作を実践した。東仲単独で複数ツールをデザインするいっぽう学生たちの手でも多数のデザインが継続的に生み出されることで八百津町山村地域の新たな統合イメージ構築に大学として貢献できたことは、町にも学生たちにとっても収穫が大きかったと言える。

この実績が認められ、2021年度からは町役場からの依頼だけではなく、町内の事業者からのデザイン依頼もいただく展開となっており、3年間の実践経験を今後のグラフィックデザインによる地域連携活動へ反映させてゆくべきと考える。

付記

本プロジェクトの今回報告は、2018～2020年度に八百津町役場に助成された農林水産農山漁村振興交付金事業（山村活性化対策）に産学官連携で本学が参画したものです。

このプロジェクト授業を推進するにあたり、協働していただきました八百津町役場、株式会社POUSSE、NPO法人まち楽房、岐阜大学、そして町民有志の皆様がこの場を借りて心より感謝申し上げます。

八百津町デザインプロジェクト学生メンバー

グラフィックデザインコース

岩田 彩伽
梶田 歩
水谷 紗菜
水谷 萌音
小出 貴子
高島 璃華子
松原 明穂

イラストレーションデザインコース

宮川 桃
森 あかり